

なぜなら彼の家の傍にある、それだけではない、雰囲気を見ることが好きなのだ、野菜や果物の出店の中を散索し、魚の高値を確認し一週間の全ての買い物をしなければならない日である。またその日は、銀行に行き彼の経済状況により不機嫌になる日である。月に二回はエレナの家に行き、週末のすべてを彼の息子たちと過ごすために迎えに行く日でもある。今日は買い物をしなかったし、幾らお金が残っているかを知って耐え忍ぶこともなかった、その上、彼を元気づけるだろう唯一のこと、息子たちに逢うこともなかった。

12時半、まだベットにいた。テレサに逢いに行くことが良いことだと彼は決めた。彼女に電話を掛け、午後の真ん中、6時ごろ行くことに取決めた。

オネトの家はポスエロにある。あそこには車で行くので、(この機会を利用して)一回りしようとしてペペは考えた。車に一人で乗ることが好きだ。ラジオを点けて。これはよい考えだ。チョコレートを食べるのも良い。今日はマドリッドの宿を選ぼう。色々と考えた後でサルスエラのヒポドゥロモで食事をし、それからポスエロへ行こうと決めた。

—テレサ、どうしたの、この何日かで痩せたようだね！どこか悪いのではないかな！

—ようこそ、いらっしやいペペ！誰かと話たかったのよ！この何日かとても混乱していました。多くの人が訪ねて来たり、沢山の資料を整理して、何も考えることができなかったの。

—子供たちはどこにいるの？

—私の両親の家に連れていったの。向こうで過ごす方が良いのよ。この状況について気付かせないことを選択したのよ・・・まだ幼いしね。ねえ、ペペ座って、くつろいで、何かお飲みになる？